

太宰府宣言

2018年12月2日
九州国立博物館

前文

人的活動により気候の変動が起こっており、地球規模で自然遺産、有形・無形文化遺産への被害が多発していることを認識し、

ICOMの倫理規程にある、災害に対する防御において博物館が果たす役割を強調する根本方針を支持し、

2015年に採択されたUNESCOの「ミュージアムと収蔵品の保存活用、その多様性と社会における役割に関する勧告」を再度支持し、

持続可能な開発目標（SDGs）のための「持続可能な開発のための2030国連アジェンダ」の促進を承認し、

2018年12月1～2日、九州国立博物館（日本福岡県太宰府市）で開催されたICOM-ASPACの参加者は、下記のとおり宣言する。

1. 津波、地震、洪水、火山の噴火、火災などの自然災害や人為的災害から文化遺産を保護することは、アジア太平洋地域の大きな懸念事項の1つである。この点において、博物館は、収蔵品や文化遺産を災害から守り、予防、救出、および将来にわたって持続可能な管理をするために必要な措置を提供することにおいて、積極的な役割を果たすことができる。さらに博物館は、文化遺産の安全を確保する場所を提供し、被災した社会の負担を軽減する。
2. 自然災害や人為的災害から有形・無形文化遺産を保護するために、博物館は適切な伝統的方法や技術革新を活用し、予防措置のための学際的アプローチを取ることを奨励する。また、博物館は、関連するすべての機関との協力を通じ、これまでの経験に基づく知識を共有する積極的な取り組みを行う。
3. 博物館は、自然災害や人為的災害の際の予防と救出を効果的に行うため、専門家と社会を教育するための積極的な取り組みを行う。博物館は、職員が適切な技術を身につける機会を提供する。さらに博物館は、関連するコミュニティに手を差し伸べ、災害リスク軽減のための意識を高め、持続可能な未来を再構築する。
4. ICOM-ASPACの博物館は、地域、国内、国際レベルでの災害リスク管理に関する専門知識と最善の手法の共有を促進するネットワークを強化する。ICOM-ASPACは、議論をさらに進め、ICOM京都大会2019におけるASPAC総会で注意を喚起する。